

政策提言特集

持続可能な奈良の創り手を育てる教育

奈良の未来について政策提言を行う「Think NARA」(代表、山本憲有・奈良市議会議員)は、その担い手である子どもたちの教育のあり方について考えます。今回は、山本代表が奈良教育大学を訪ね、「持続可能な奈良の創り手を育てる」をテーマに、奈良教育大学ESD・SDGsセンター長・中澤静男教授と対談。世界遺産学習を通じたSDGs(持続可能な開発目標)への気付きと行動、修学旅行とタイアップした取り組みなどについて意見を交換しました。対談内容を紙面で紹介します。

SDGs達成の力を握る教育＝ESD

山本 お忙しい中お時間をいただき、ありがとうございます。春日大社や東大寺などの世界遺産が身近にあり、奈良公園の豊かな自然に囲まれた奈良教育大学で、中澤先生はESD(持続可能な開発のための教育)に取り組まれています。ESD・SDGsセンター長も務められていますが、ESDとはどのようなものか教えてください。

世界遺産＝ESD

中澤 SDGsが2015年に採択される以前から、奈良教育大学はESDに注力し、「持続可能な社会づくり」に貢献できる教員の養成」を本学特色の三本柱の一つに掲げています。環境や文化、平和、人権などさまざまな課題に対応できるように、学生たちはESDについての知識、指導方法を身に付けていると考えています。

身に付けることに取り組んでいますが、その拠点となるのが、このセンターです。ESDに取り組むきっかけは、2007年に本学がユネスコスクールに加盟登録したことでした。当時、学生たちから「ユネスコクラブをつくりたい」という声が上がって、私もその熱意に押されて、ESDの研究に取り組んだことを思い出します。

その後、ESDの認知度も上がり、SDGsも高い関心を持たれるようになってきました。

「自ら参加」行動促す

奈良教育大学 ESD・SDGsセンター長 中澤 静男教授



なかざわ・しずお 1982年立命館大学文学部史学科卒業。奈良県内に勤務するかたわら、社会科教育について研究し、2004年奈良教育大学大学院教育学研究科社会科教育専攻修士課程を修了。奈良市教育委員会指導主事を経て、11年より奈良教育大学教育連携講座教授、22年よりESD・SDGsセンター長。日本ユネスコ国内委員会国内委員。

定な時代に、動物も植物もすべての生きものの繁栄を願い造りだされ、その後も、多くの人の願いが結果として再建されました。

東大寺は国が、春日大社や興福寺は藤原氏がスポンサーでしたが、元興寺にはスポンサーがいなかった。今日まで受け継がれてきたので、「なぜ、受け継がれてきたのか」と疑問を持つことが、ESDの気付きになります。

東大寺は平和な世の中を築きたいという多くの人の願いによって、元興寺は庶民の信仰によって支えられ、1300年間、現役であり続けています。つまり「多数の市民の参加・協力」によって持続可能な社会を実現してきたという証です。

このようにESDの視点から歴史文化遺産を見つめ直すことにより、持続可能な社会の実現に向けた多くのヒントが得られます。

ESDへの行動を促すものとは

山本 奈良教育大学のキャンパスに現れるのは当たり前前の光景です。ところが、他県から来られた新入生はびっくりして写真を撮るのたりして。奈良市にとって鹿や文化財は身近にあり過ぎて、つい見過ごしてしまっています。あらためてESDによる気付きの大切さを教えてくださいました。

対談 奈良教育大学ESD・SDGsセンター長・中澤静男教授 Think NARA 山本憲有代表(奈良市議)

「学び旅」で良さを発信

Think NARA 山本 憲有代表



やまもと・かずひろ 1971年6月奈良市生まれ。帝塚山大学経済学部卒業。関西大学大学院ガバナンス研究科修了、修士(政策学)。日本地方自治研究学会所属。13年に奈良市議会議員選挙に初当選、現在3期目。奈良教育大学附属小学校教育後援会会長、日本少年硬式野球連盟奈良ヤング顧問。一般社団法人奈良青年会議所第52代理事長(11年)。

イングリッド・幸福・持続的に満足を得られる状態」にある社会は持続可能な社会といえます。ESDでは、国際交流や学校間交流を通じて、違いだけでなく普遍的な願いがお互いに共通していることに気づき、自分も地元のエレブリングの向上のために何かできないかという行動に移すことになり、これが「持続可能な社会の創り手」となり、「自ら参加・協力する多くの市民」をつくることになり、

歴史文化遺産を通じたESDでは、世界遺産の東大寺を見て「大きくて、すごいでしょ」と終わるのではなく、「なぜ東大寺や大仏が造られたか」として「先人たちの思い」を知ることが、SDGsとの共通点に気づきます。そこでSDGsの地球的課題の解決のために、「あなたはいくつ、何をやるか」が問われ、考えることになり、

つまり、ESDによって、課題解決を任せにしない、持続可能な社会をつくる能動的な行動を促すことになり、

山本 これまでの世界遺産学習の成果を、奈良を訪れる修学旅行などにも活用されていると聞いています。産学連携による「奈良SDGs学び旅」について教えてください。

中澤 「奈良SDGs学び旅」は奈良市の宿泊・周遊観光の促進を目的に、奈良商工会議所やソーシャル・サイエンス・ラボ、本学などが協議会を設立し、修学旅行生をターゲットに2020年度から取り組んでいます。奈良の歴史や自然をSDGsの視点で学ぶことで、より深く奈良を知ってもらうとともに、地元につなげていきたいと思います。

山本 奈良市は有名観光地であるにもかかわらず、宿泊客数が少なく、観光客の消費額も少ないことが課題となっています。修学旅行も多様化する中で、奈良を目的に宿泊する「学び旅」を選ぶ学校が増えているのは、大変素晴らしいことです。

こうした成果が認められ、2024年度「全国商工会議所きざり輝き観光振興大賞」で奈良商工会議所が大賞に選ばれました。奈良の歴史文化遺産を通じたSDGsの深い学びが、観光振興、地域振興につながったところが高く評価されたのだと思います。学び旅がインバウンドにも活用されれば、奈良のさらさら世界に発信することになります。

足元を見つめることで、本当の良さに気づき、多くの人の参加と協力で持続可能な社会を実現していく。それが奈良で実践されていることがよく分かりました。今後ESDが発展し、SDGsに貢献できるよう、しっかりと取り組んでいきます。本日はありがとうございました。

皆様のご意見をお寄せください

『Think NARA』代表 山本憲有

奈良の未来を考えるために設立。すべての人に優しいまち、笑顔があふれる元気なまちを目指す「まちづくりの創造」、未来への適応力と自ら考え生き抜く力を育むための「教育環境のありかた」を考え、政策提言していく。

問い合わせは 奈良市西木辻町121の2の302 電話0742(26)2026



「持続可能な奈良」を担う子どもたちの教育について意見を交換＝奈良教育大学ESD・SDGsセンター